

関市 洞戸・板取地区

令和6年度

【地域の概要】

- 洞戸・板取地区は関市の北西部に位置し、越美山脈から派生する高賀山を主峰に山陵に囲まれ、中央には板取川が流れる中山間地で、自然を生かした観光業が盛ん。
- 農用地面積は138.17ha、水稻を中心に、野菜、キウイフルーツなどの園芸作物が栽培されている。

①取組開始前の状況や課題

状況

○人・農地プランの状況

洞戸地区

- ・耕作面積 107.51ha
- ・中心経営体 7経営体
(営農組織 1 経営体)
- ・70歳以上で後継者未定の耕作者の耕作面積17.5ha
- ・キウイフルーツや洞戸みそなどの生産に取り組む

板取地区

- ・耕作面積 34.62ha
- ・中心経営体 1経営体
- ・70歳以上で後継者未定の耕作者の耕作面積8.81ha
- ・ブルーベリーなどの生産に取り組む

課題

- 高齢化による耕作放棄地の増加や鳥獣害被害などにより管理困難な農地の増加が懸念される。

②取組内容

推進会議（令和6年7月9日）

- 中心経営体、地区の農業委員・推進委員、県農林事務所、農地中間管理機構、JA、農業会議など23人を参集して開催した。地域計画策定に向けた説明を行い、人・農地プランと現況地図を基に協議した。現況地図は細目書を参考にサポートシステムで作成した。

- 話し合いの中で、基盤整備事業など補助金があれば活用したいとの意見があり、協議の場で補助金メニューを取り上げることとした。

協議の場（令和6年7月30日）

- 担い手や地区の農業委員・推進委員、県農林事務所、農地中間管理機構、JA、農業会議など20人を参集して開催した。担い手や所有者の参集については地区の委員から呼びかけ・市町村HPで掲載した。県農林事務所と農地中間管理機構より補助金メニューについて説明。農地バンクの活用を勧めた。

- 担い手から「できるだけ耕作していきたい」、「担い手が少ない中、協力して農地を守っていきたい」、「各地区それぞれ魅力あるので担い手を育てる道を残したい」との前向きな意見もあった。

③今後の展開と方向性

- 今後は年1回見直しを行い、農地中間管理事業を活用した農地集積を呼びかけていく。
- 特産品のキウイフルーツやブルーベリー、洞戸みその取り組みを進め、若い農業者の新規参入を呼びかけていく。
- 鳥獣害対策や遊休農地解消に向けて補助金の活用を検討していく。